中国支社 HIROSHIMA
〒732-0821
広島市南区大須賀町14番12号 第一ビル
TEL(082)263−5523　FAX(082)568−2927

西日本ネットワーク
中国・四国・九州・沖縄
JAPAN METAL BULLETIN Local Network

福岡支局 FUKUOKA
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3丁目23番22号 シティ22ビル
TEL(092)472−3887　FAX(092)472−3888

新工場に5軸加工機

江藤製作所　機械加工を内製化

大分地区有力シャー業者の江藤製作所（本社＝大分市乙津町、岡陽一社長）は本社敷地で建設を進めてきた工場が完成。新たに同社で初めての同時5軸加工機を導入し、機械加工を開始した。大型製缶まで手掛ける中、機械加工も内製化することで納期対応などユーザーサービスを向上させるほか、風力をはじめとした発電などグリーントランスフォーメーション（GX）向けの新たな需要にも応えたい考え。

GX向けニーズに対応

今回、敷地南側の駐輪機を製作していた建屋を取り壊し、新たに約400平方㍍の「第1MC工場」を建設。併せて同社初の同時5軸加工機を導入することで外注していた機械加工を内製化。以前から手掛けるEVやトンネルセグメント向けのほか、世界的脱炭素化の流れから風力や潮力、小型モジュール炉などGX向けの新規需要の捕捉を目指す。

加工機のオペレーションと品質管理は江藤製作所と江藤酸素が折半出資して昨年設立されたS.E.テック（社長＝日下明宏・江藤酸素顧問エンジニア担当）が担う。

26日の竣工式で神品誠治会長は「化工機事業部では大型製缶まではできるが、その先の機械加工ができない弱点がはっきりしていたため、大型構造物の機械加工を始めることにした。工程調整が容易になり、お客さまに喜ばれると思う。世界ではカーボンニュートラルが進む中、発電向けでは大型製缶が必要。『食卓から宇宙まで』をキャッチコピーに社是の『努力・誠実・前進』を基にものづくりを通して社会に還元して皆さまに喜んでもらえる会社にするため社員一丸となって前進していく」とあいさつ。

施工した梅林建設の梅林秀伍社長のあいさつに続いて起動式が行われ、日下社長が「江藤製作所は50周年を迎え、今回導入したのは同時5軸加工機で5という数字に縁を感じる。江藤製作所として今後の大きな柱となるようワンチームで頑張っていく」と意気込んだ。

LNG（液化天然ガス）向けをはじめとした高さのある大型タンクのほか、高圧ガスや真空配管などの各種配管や貯槽の設計や製作、施工を手掛ける化工機に加え、溶断、精密板金塗装の3事業部で構成。溶断では本社と志村（大分市青崎）のほか、八幡工場（北九州市）を展開。精密板金は杵築（大分県杵築市）と佐賀（佐賀県吉野ヶ里町）それぞれに拠点を置く。

第1MC工場外観

あいさつする神品会長

平林金属　就労支援事業所を設立

仕事と技能向上の場提供

総合リサイクルの平林金属（本社＝岡山市、平林実社長）はこのほど、リサイクルファーム御津第二工場（岡山市）内に就労継続支援事業所（A型）を立ち上げた。金属スクラップの選別や前処理など、ヒラキングループからリサイクル関連の仕事を提供し、利用者に仕事と知識・技能向上の場を作ることで、障害者などの就労を後押しする。

取引先の就労継続支援事業所の一つが、新型コロナウイルスの影響などで仕事が減り閉鎖を余儀なくされたことから、受け皿を作りたいと新会社「たからさがし」（同市）を設立した。施設の利用者からも「ヒラキングでの仕事を続けたい」などと事業継続の要望があったほか、作業を依頼していた平林金属の社内から強かったという。互いに必要な存在と感じていたことが、新しい事業所の利用者全てが新会社へと移った。利用者は今後、リサイクルファームでの仕事を通じ、知識や技術を磨きながら一般企業などへの就労を目指す。ヒラキングループでも近年、障害者などの新卒・中途採用に力を入れていることから、条件の合う利用者の直接採用を視野に入れる。

就労継続支援A型事業所は、一般企業で働くことが困難な人を対象に、雇用契約を結び、就労の機会を提供する支援事業。就労機会の提供や知識・能力向上のために必要な訓練などを行う。

工場での作業の様子

電線のコネクター除去など細かな前処理作業を担う

サンフレッチェ広島の試合に広告

誠和商会、知名度向上図る

鋼材加工販売の誠和商会（本社＝広島市、西本寛史社長）は、8月にサッカーJ1・サンフレッチェ広島とクラブパートナー契約を締結した。エディオンスタジアム広島（広島市）でのホームゲームで広告看板を掲出している。地元チームの支援を通じて地域の発展に貢献するとともに、業界内外での企業の知名度向上につなげたい考え。

広告看板は、観客席の手すり下に2023年シーズンまで設置する。8月20日に行われたガンバ大阪との試合で、初めて掲出した。

同社は社員の幸せを第一に、福利厚生の充実や企業イメージの向上などに取り組んでいる。西本社長は「より多くの人に、誠和商会と、誇りを持って働く社員の事業活動を知っていただける機会を創出していきたい。サンフレッチェ広島の『夢と感動を共有して地域に貢献する』というクラブ理念は、当社の考えと共通するものがあり、支援したいと感じた」と話す。

現在、広島市の中心部でサンフレッチェ広島の新たな本拠地となる新サッカースタジアムの建設が進んでおり、24年シーズンからの使用を目指している。同社は新スタジアムでも、クラブパートナー契約を続けていく予定だ。

掲出している広告看板【写真提供＝サンフレッチェ広島】

津山ステンレス・メタルクラスター

会員の人材育成・DX化支援

本業に専念できる環境へ

岩佐 健司会長

岡山県の北部に位置する津山市は金属加工業者が多く、日本有数のステンレス加工が盛んな地域だ。各社が事業に専念できるよう、つやま産業支援センターが運営する「津山ステンレス・メタルクラスター」は、会員企業の人材育成や今後のDX化への取り組みといった支援を行う。団体の会長を務める津山工業高等専門学校の岩佐健司校長に、活動内容などを聞いた。

――はじめに、津山市はなぜステンレス加工企業が多いのか。

「1970年代から中国自動車道が開通したことを機に、関西のステンレス製品を製造販売する企業が津山市に生産拠点を設け、合わせてサプライチェーン企業も移転してきた。そこから徐々にステンレス加工を手掛ける企業が増えていった。機械加工、切断、曲げ、溶接など、各社が技術の範囲を広げ、新規受注も増やしていったことで、ステンレス鋼を中心とした金属加工業者の集積地になったと聞いている。BtoBの仕事がメインのため、一般的にはあまり知られていないが、おそらく日本一ステンレス加工が盛んな地域だ」

――津山ステンレス・メタルクラスター設立の経緯を。

「盛んな産業を津山市として伸ばしていきたいと、97年にステンレス加工の共同受注団体『津山ステンレスネット』を結成した。現在も11社で活動している。そんな中、各企業の発展に伴い、将来的な人材育成や技術継承にどう取り組んでいくか、中小企業1社だけではなかなか解決しにくい問題も増えてきた。そういった課題を解決し、会員企業が本業に専念できる環境をつくろうと、2006年に津山ステンレス・メタルクラスターを設立した。つやま産業支援センターと津山高専が中心となり、県内各機関とも連携して共同開発・研究、技術面でのバックアップ体制も整えている」

――会員企業は。

「津山市を中心に近隣市町村など、岡山県内の企業42社が参加している。設立時の20社から、会員は増え続けている。ステンレス鋼を中心に、鉄やアルミなどの金属加工業者のほか、鋳造、製缶、機械メーカーといったさまざまな企業が参加する。向け先はサニタリー、化学プラント、医療、機械部品、半導体関連向けなどと幅広い」

――主な活動内容は。

「42社というスケールメリットを生かし、講師を招いての技術や経営の研修会を開催するほか、地域の子どもや学生に会員企業の工場を見学してもらう、つやま産業支援センター主催のオープンファクトリーにも参加している。機械要素展といった展示会にも団体として出展しており、一つのブースで多くの技術提案ができることもメリットだ。県内外へ津山市の魅力を発信することで、地域の人口減少を抑制し、各社の人材確保につなげたいという狙いもある」

「会員間では、加工企業の集積地というメリットを生かし、受注過多の時は仕事を融通し合い、ちょっとした工具の貸し借りまでしている」

――今後の課題は。

「加工企業では人手不足が深刻化している。将来を見据えて人材確保に動くのか、工場の省人化を進めるのか、今後は各社で判断していかなければならない。われわれはどちらにも対応できるよう、人材確保や育成、工場のDX化、そしてSDGsやカーボンニュートラルに向けた取り組み支援なども行うことで、会員が本業に専念できる環境整備を継続していく」

――最後に、津山高専の校長として今後の目標などを。

「地域の魅力を再認識し、付加価値の高いものづくりを創出することは、地域産業界にとっての大いなる道筋だと考えている。地域の特色を生かしながら、DX化に取り組んでいくことは急務だ。その役割の一端を担うべく津山高専は、会員の皆さまのご支援のもと、今後も創造的実践技術者育成を通じて、津山市の発展に寄与していきたい」

（長谷　幸三）

日刊産業新聞 22.8.30

中国地区　企業倒産件数3.8％減

1―6月 過去最少を記録

東京商工リサーチ広島支社のまとめた2022年上半期（1―6月）の中国地区企業倒産状況によると、倒産件数（負債総額1000万円以上）は前年同期比3・8％減の127件、負債総額は前年同期比24・0％増の378億5100万円だった。件数は1965年の集計開始以降の年上半期で最も少なかった。

県別件数は広島県が54件、岡山県が33件、山口県が17件、島根県が13件、鳥取県が10件だった。前年同期に比べ、広島、山口、島根の3県で減少し、岡山県、鳥取県で増加した。

産業別ではサービス業他で38件、建設業で30件、卸売業、小売業で各17件、製造業で12件、運輸業で8件、農・林・漁・鉱業、不動産業で各2件、情報通信業で1件となった。

原因別では販売不振が90件と最も多く、既往のシワ寄せが21件、他社倒産の余波が5件、過小資本が4件、設備投資過大が2件、放漫経営、信用性低下、売掛金回収難が各1件、その他が2件だった。不況型倒産（販売不振、既往のシワ寄せ、売掛金回収難）は112件で全体の88・2％を占めた。

九州鉄鋼製品　7月輸出量減

門司税関

門司税関が発表した7月の九州経済圏貿易概況（速報値）によると、鉄鋼製品の対前年同月比の輸出は数量が4カ月ぶり、価格は19カ月ぶりに前年同月を下回った。タイやEU向けが減少した。ただ、市況の上伸や円安により数量に対して価格の減少は小幅だった。

輸出は鉄鋼製品全体で、45万6234㌧（前年同月比39・7％減）、769億5000万円（10・7％減）。品種別では棒・形鋼および線が3万6136㌧（20・7％減）、82億3000万円（25・8％増）、フラットロール製品が39万4270㌧（40・1％減）、636億3300万円（13・7％減）、管および管用継手は6422㌧（65・7％増）、31億2300万円（45・5％増）となった。軌条はわずか2㌧、100万円（99・9％減）。

鉄鋼製品以外では鉄スクラップが6万5194㌧（40・8％減）、42億1700万円（32・9％減）で、3カ月連続で大台の10万㌧を下回った。非鉄金属製品は2万5053㌧（14・9％増）、313億5500万円（16・6％増）。

自動車は7万5806台（15・7％増）、2493億6000万円（41・5％増）。台数は1年、価格は7カ月ぶりにプラスに転じた。昨年12月（7万3566台）以来の水準となった。船舶は10隻（同数）、407億1100万円（162・4％増）。半導体等製造装置は438万2991㌔㌘（174・9％増）、6822億6500万円（63・8％増）だった。

輸入では鉄鋼製品が8万1013㌧（24・3％減）、202億3200万円（34・1％増）で2カ月ぶりに大台の10万㌧を下回り、価格は1年5カ月連続のプラス。非鉄金属は1万4199㌧（25・9％減）、107億4300万円（28・2％増）。

原料関係では金属鉱およびスクラップが170万2586㌧（8・7％減）、777億3800万円（5・4％増）。その中で鉄鉱石は151万5467㌧（7・3％減）、2522億7700万円（19・4％減）、非鉄金属鉱は17万6210㌧（16・8％減）、463億5000万円（25・6％増）。このうち、銅鉱は10万6131㌧（9・4％増）、410億9400万円（28・2％増）となった。

中国公共工事　件数3％増加

7月、請負額も増

西日本建設業保証広島支店がまとめた2022年7月の中国地区5県の公共工事動向によると、保証取扱件数は前年同月比3・0％増の1724件、請負金額は同3・9％増の872億9200万円だった。

発注者別では国が135億8300万円（前年同月比17・2％減）、独立行政法人等が44億5400万円（同18・3％増）、県が260億1300万円（同5・3％増）、市町村が412億3200万円（同12・2％増）、その他公共団体が20億8000万円（同15・9％減）となった。

地域別では鳥取県が83億4000万円（同17・6％減）、島根県が166億2700万円（同16・4％増）、岡山県が162億4700万円（同0・4％減）、広島県が295億4400万円（同3・4％増）、山口県が165億3200万円（同12・4％増）だった。

大型工事は、こども療育センター及び児童相談所等改築工事（広島市）、山口大学（医病）外来診療棟等（C棟）改修工事（山口県宇部市）、廿日市市筏津地区公共施設再編事業（広島県廿日市市）、米子自動車道宮原トンネル工事（鳥取県伯耆町）、一般国道490号道路改良（雪崎山トンネル）工事（山口県美祢市）など。

四国は4.8％増加

請負額も増

西日本建設業保証香川支店がまとめた7月の四国地区4県の公共工事動向によると、保証取扱件数は前年同月比4・8％増の1514件、請負金額は同3・9％増の592億4500万円だった。

発注者別では国が71億1800万円（前年同月比44・6％減）、独立行政法人等が35億2100万円（同87・2％増）、県が217億4200万円（同5・2％減）、市町村が248億3300万円（同38・3％増）、その他公共団体が20億2800万円（同47・3％増）となった。

地域別では香川県が103億2400万円（同4・9％減）、徳島県が173億5600万円（同45・1％増）、愛媛県が163億9300万円（同22・4％増）、高知県が151億6900万円（同27・1％減）。

大型工事は、徳島自動車道脇工事（徳島県美馬市）、鳴門市新庁舎整備事業（徳島県鳴門市）、善通寺市新庁舎建設工事（香川県善通寺市）、県立中央病院ER棟新築工事のうち建築工事（徳島市）、道交国防安（改築）（債）第8113―009―1号国道441号防災・安全交付金（口屋内トンネル（1））工事（高知県四万十市）など。

日刊産業新聞メール速報
https://www.japanmetal.com/order-email
◆月曜から金曜日の朝と夕方に無料配信
◆速報性の高いニュースは臨時配信
登録は弊社サイトか、左記QRコードまで

省メンテナンス型 次世代耐火被覆材
耐火テクト®
発泡性ポリエーテル樹脂 耐火被覆材
■耐火テクトによる問題解決
耐火被覆材は人命、財産を守る機能材です。耐火テクトは現在、世の中に求められている耐火性能に+αを満たす耐火被覆材です。
様々なデザイン建築物が増えており耐火被覆に
1. 屋外耐久性　2. デザイン性　3. 工期短縮
といった機能が求められており、それらを解決できる安心な耐火被覆材です。
耐火テクトの施工、その他お問合せ等は当社にご相談ください。※「耐火テクト」は関西ペイント㈱の商品です。
三喜工業株式会社
〒808-0021 北九州市若松区響町1丁目110番2
E-mail：sanki@sankiindustry.co.jp
http://sankiindustry.co.jp/
TEL.093-751-3333
FAX.093-751-3366

四国の鉄鋼相場

（8月29日現在、右は来週の見通し。単位：トン、円）

異形棒鋼（SD295、直送）		103.000 →
平鋼（6×50）		138.000 ↗
等辺山形鋼（6×50）		122.000 ↗
溝形鋼（6.5×75×150）		122.000 ↗
H形鋼（5.5×8×200×100）		121.000 ↗
大径角形鋼管・BCR（12×350×350）		175.000 ↗
角形鋼管（2.3×100×100）	黒	178.000 ↗
	カラー	188.000 ↗
軽量C形鋼（2.3×100×50×20）		175.000 ↗
中板	3.2（4×8）	130.000 →
酸洗鋼板	3.2（4×8）	140.000 →
冷延鋼板	1.6（4×8）	145.000 →
表面処理鋼板	1.6（4×8）	157.000 →
厚板　切板		160.000 →
縞鋼板	4.5（4×8）	150.000 →
黒ガス管	50A	190.000 ↗
一般構造用鋼管	48.6×2.3	195.000 ↗
ステンレス鋼板SUS304 ホットカットシート3―6（18Cr―8Ni）		580.000 ↗
鉄スクラップ価格	H2　姫路	44,500 ↗
	H2　大阪	45,500 ↗
東京製鉄岡山・陸	特級（H2）	45,000 ↗
高松・陸	特級（H2）	42,000 ↗

※鋼材価格は置場渡し価格、鉄スクラップは購入価格
△は値上がり、▼は値下がり　毎週火・金曜日に掲載